



58 宝玉七宝 鳳凰形香炉 梶佐太郎 明治~大正期(20世紀) 七宝 9.0×58.0×21.5

宝玉七宝とは、明治期から大正期にかけて、川崎造船社主の川崎正蔵が尾張七宝出身の梶佐太郎(1859~1923)に作らせた、中国明時代の七宝の技術を再現したものである。昭和24年2月に貞明皇后よりいただかれた。

61 赫夜姫昇天

野口光彦 昭和28年(1953)
木彫胡粉塗、彩色 21.0×26.0×42.0

昭和28年に開催された第9回日本美術展覧会(日展)第4科美術工芸の依嘱出品作。野口光彦(1896~1977)は御所人形を現代的にアレンジして、独自の創作人形を作りだした。戦後は日展や日本工芸会で活躍し、現在の人形芸術の基礎を築いた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

若梅に撫子——旧高松宮家と伝来の品々

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 62

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十五年三月二十六日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections